



万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部
〒228 神奈川県相模原市麻溝台2の1
北里大学東病院
TEL: 0427-48-9111 FAX: 0427-45-5582
発行者：比企能樹
編集責任：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部広報担当委員・村田宣夫(埼玉医科大学総合医療センター)
印刷：Dig印刷 Tel: 03-3551-3060
年1回発行 1995年4月創刊

支部長挨拶

今こそ、世界に向かってはばたく時

万国外科学会

日本支部長

比企 能樹

(北里大学東病院長)



万国外科学会の Society President が、我が国から選ばれたことは、世界の外科学会として最古の歴史をもつ本学会である丈に、大変誇るべきことであります。

そもそも、本学会は、1902年にベルギーのブリュッセルにおいて設立され、1905年に第1回の学術集会が、Kocher 教授を会長として行われ、爾来 Czerny, Lucas-Championniere, Hartmann, Schoemaker, Grey Tunner, Leriche, Graham, Ochsner, Petrovsky, Linder, Allgöwer, Nyhus, Trede といった著明な先達によって、脈々とその歴史が受け継がれてきました。

出月康夫会長は、1995年、会長に就任されるや直ちに、万国外科学会の財政を健全なものに建て直されました。更に、学会の運営についても、より近代化すべく、努力をされ今日に至っております。その業績は、世界的に評価されていることを、先ず、日本部会の皆さんに御報告する次第であります。このことは、この数年間、本学会に、我が国の若手外科医が多く入会され、香港、リスボンの学会では、優秀な論文が数多く発表されたことも、大きな力となっているといえます。

本学会の機関紙となっている World Journal of Surgery (Springer) は、最近外科学領域での評価が高くなり、採択率も厳しくなったものの、我が国は、米国について採択率がよくなっていることは、御同慶の至りであります。

今年は、いよいよ、メキシコのアカブルコにおいて、第37回万国外科学会が国際外科週間 (International Surgical Week) として開催されます。

日本支部としても、一人でも多くの会員がアカブルコで勇躍していただけよう、本部に積極的に働きかけております。是非とも今回、リスボンにおける434題の採用を上廻るよう、より多くの参加を期待しています。

日本支部の会員の方々には是非とも知りたいことは、特別会員の制度があることであります。規約によれば、特別会員は、外科の臨床から引退し、正会員として少くとも15年以上在籍した会員であれば、その資格を請求することができます。請求方法は、スイス本部の Ruedi 事務局長に直接でもよいし、または、国の支部代表者或いは支部の幹事を通じて書面で申し込むことになっています。これを受けて、理事会によって承認されます。

有資格の方は、是非とも手続きをお奨めします。

次に正会員の権利ですが、本会の総会で決められた会費と支部の維持費を納めたならば、会員としての投票権をもつことになります。特別会員は、会費や支部の維持費を納める必要はありませんが、投票権はありますので御承知おき戴きたいと思います。

本会の学術集会の会長 (Local Organizing Committee, President) は総会により、会員の選挙により選出された候補を理事会で決定することになります。従って、会員の総会における投票結果は、開催地を決めるために大変大きな影響力をもつことになります。その意味で、学会期間中に行なわれる総会には、日本の会員は一人でも多く出席されることを望む次第であります。

2001年は、本学会の創立100年を記念して第1回が行われたベルギー、ブリュッセルにおいて開かれることが決まりました。

日本支部としては、出月康夫会長と御相談の結果、当面は、日本誘致の立候補はしませんが、2005年以降を目途に有力な会長志望者があれば、積極的に日本誘致をすることもやぶさかではありません。その時は、国を挙げて、努力を惜しまぬ覚悟でのぞむべきでしょう。

そのためにも、日本支部としては、より力強い若い Power に期待します。これからは、諸君の時代です。

その手始めに、是非ともアカブルコで力を結集しようではありませんか。

主な掲載内容

- 支部長挨拶～今こそ世界に向かってはばたく時
- ISS 本部からのお知らせ
- 特別寄稿：馬場正三先生、田中雅夫先生、藤本吉秀先生

万国外科学会 日本支部会総会議事録

1996年10月29日15:00から16:00
於京都国際会議場

1. 出月会長の挨拶

2. 日本支部長からの報告（比企支部長）

- 1) 日本支部会の名簿に誤字があった場合→日本支部・事務局まで連絡してください。
- 2) スイス支部からISW1997 (アカブルコ) についての連絡
ホテルについて：プリンセスホテル(アカブルコ)に本部が置かれる。通常より安い \$ 155/night で提供される。本部から、なるべくプリンセスホテルを利用してほしいと要望があった。4社代理店が参入している。
- 3) 会員募集について：昨年リスボンのISWに参加した人々に勧誘をして多くの方々が会員になった。今後も会員を増やす努力をしたい。日本支部でISS会員の推薦をします。多くの外科医に声をかけて連絡してください。
- 4) 1997年のISW(アカブルコ)への日本からの参加について：多くの先生に参加を宜しくお願いします。
- 5) 追加連絡

一般演題の選抜方法：一題について6人のレフェリーが採点する。所属などは blind で行う。各レフェリーが1点から5点までの点数をつける。

前回日本からの演題は90%以上採用されました。12月13日現地必着です。

治安について：いずれ追加報告する。現地からは特に問題ないとのこと。

新潟大学曾我先生よりアカブルコについての報告：リゾート地でボートほかいろいろ海岸で楽しめますとのこと。日本支部会ニュース第3号に一部紹介した。

3. 庶務報告（北里大東病院嶋尾先生）

- 1) 1996年10月現在総数245名の会員がいる。
- 2) 会費は年間 ¥5,000 です。現在は64名が納入した。
2年不払い除名。その該当者は今現在12名いる。この先生方には既に通知済み。
- 3) 名誉会員推薦について：齊藤満先生、島田信勝先生は故人となつたため対象外となった。今後検討していただきたい。
- 4) 規約 2-b : 15年経過した方は名誉会員となる。
4-b : 説明、確認
- 5) 日本支部ニュースについて
 - 1) 年2回 (4月、10月) 発行する。
 - 2) 投稿を歓迎する。比企支部長または広報担当の村田宣夫 (埼玉医科大学総合医療センター) へ連絡していただきたい。
- 6) World Journal of Surgery
現在、編集委員には阿部令彦先生、出月康夫先生、高木弘先生が任命されている。次第に評価があがっている雑誌であり、投稿をお願いする。

4. 各担当理事報告：特になし

5. その他

- 1) International Conference Information

国際外科学会が1996年11月25日から29日まで京都国際会議場で行われる。

第2回国際胃癌学会が1997年5月にドイツ・ミュンヘンで行われる。その他国際学会の報告あり。

6. 万国外科学会のアジア誘致について(出月会長)

1999年：バーミンガムの予定であったが、コストがかかりすぎることが判明した。当初の見込みより1.5倍高くなった。イギリスからすでにデポジットとして2千万円ほどの金額をスイスの本部へ請求してきたとのこと。そこで1999年のISWはウイーンで開催する方向である。

2001年：ブリュッセル (決定されている)

2003年：バンコクまたはエルサレムがアカブルコの総会で決まる予定。

その次に会長をやってみようという方が日本支部会の中にいないでしょうか？

7. 次回の支部会は1997年4月(外科学会の会期中)に行います。

出席者(あいうえお順)

阿部令彦	斎藤和好	中尾昭公	宮崎耕治
市原透	笛田明徳	梨本篤	村尾佳則
出月康夫	佐竹克介	二村雄次	村田宣夫
織畑秀夫	嶋尾仁	馬場正三	本橋久彦
恩田昌彦	鳴田紘	比企能樹	門田守人
門脇憲	白日高歩	平山廉三	山崎洋次
川原田嘉文	曾我淳	藤田佳宏	山下精彦
北村正次	高橋伸	藤野幸夫	吉田宗紀
神前五郎	高橋俊雄	磨伊正義	
小林伸行	高見博	松本純夫	

(文責: 藤野幸夫)

○スイス本部からのお知らせです。右側に邦訳を掲載します。

**International Symposium on Earthquakes & People's Health:
Vulnerability Reduction, Preparedness & Rehabilitation
27-30 January 1997, Kobe, Japan**

Dear Professor Idezuki

Only these days we have received information from the Head of the World Health Organisation that the above mentioned Symposium Will take place in Kobe from January 27 to 30, 1997. Since this Symposium will be of great interest to people from your side of the world. I was wondering whether you would see ways on how we could spread information amongst the Japanese Members. By airmail we shall provide you or Professor Hiki as National Delegate of ISS/SIC, with the documents about the Course as well as if requested, with mailing labels of all Japanese ISS/SIC Members. I would appreciate very much if you could let us know whether you could agree with this procedure. By a copy of this letter we shall also ask Professor Hiki for his opinion in this respect.

With kindest personal regards.

Yours sincerely
Victor Bertschi
Administrative Director ISS/SIC

**地震と健康に関する国際シンポジウム：
被災の軽減、準備、リハビリテーション
1997年1月27日・30日 神戸**

最近1997年1月27日から30日にかけて神戸で開催される上記のシンポジウムに関する情報がWHOから届きました。このシンポジウムは世界中の関心を集めるものになると思われますので、日本の会員の方々にもお知らせした方が良いのではないかでしょうか。出月会長または比企先生宛にシンポジウムに関する書類や、必要な場合にはISS/SIC日本会員の郵送用ラベルをお送りすることもできます。以上の事柄について賛同いただけるかどうかお知らせ下さい。比企先生のご意見も伺いたいのでこの手紙のコピーをお送ります。

Victor Bertschi
Administrative Director ISS/SIC

ISS/SICから全会員に郵送された秋のニュースレターに加えて以下の事柄についてお知らせいたします。

***新しいメンバーシップブックレット**

1996年4月30日現在のISS/SICのメンバーの状況を示した最新の会員名簿（緑のブックレット）がお手元に届いていると思います。名簿の中で変更がありましたらお知らせ下さい。各会員からの情報と同様、支部代表から情報も大変有効なのです。

支部代表の方々のご協力によって、今年度は以下の国々で新メンバーが入会しました。

1. USA	23	13. UAE	4	25. Ireland	2	37. Latvia	1
2. Japan	18	14. Algeria	4	26. Moldavia	2	38. Lithuania	1
3. Mexico	9	15. Greece	3	27. Pakistan	2	39. Netherlands	1
4. Slovakia	8	16. Honduras	3	28. Peru	2	40. Poland	1
5. China	6	17. Thailand	3	29. Russia	2	41. Saudi Arabia	1
6. Israel	6	18. Ukraine	3	30. Turkey	2	42. South Africa	1
7. Italy	6	19. Vietnam	3	31. UK	2	43. Swaziland	1
8. Kazakhstan	6	20. Argentina	2	32. Angola	1	44. Sweden	1
9. Bulgaria	5	21. Australia	2	33. Belgium	1	45. Taiwan	1
10. France	5	22. Canada	2	34. Denmark	1	46. Uzbekistan	1
11. Myanmar	5	23. Chile	2	35. Dominican Rep.	1		
12. Switzerland	5	24. Germany	2	36. Iran	1		

We may recall that the International Society of Surgery/Société Internationale de Chirurgie (ISS/SIC) does not want to become a organization but needs to have new and young surgeons in leading positions. The efforts undertaken by the National Delegates and Representatives are highly appreciated. The success of the Society very much depends on the activities of the National Sections.

The ISS/SIC needs about 100 new members per year to compensate for the fluctuations in the active membership because of members advancing to Senior Membership, resignations and deaths. The total number of membership has increased to 3,886 since last year. Included in this figure are 19 Honorary Members, 642 Senior Members and 3,225 Active Members. The number of Active Members has only slightly increased by 41 during the year 1996. Consequently, we are looking forward to receiving additional applications for new members. Please let us know in case you need to receive more application forms.

ISS/SICが大組織になる必要はありませんが、第一線で活躍する若い医師の入会が望れます。各国支部代表の方々のご努力は大変感謝しております。各会員の活動こそがISS/SICを支えているのです。

特別会員（senior member）になられたり、退会または死亡などによって正会員（active member）の数が変動するので、毎年約100人の新会員が必要なのです。昨年までに会員数は3,886名になりました。内訳は名誉会員が19名、特別会員が642名、正会員が3,225名です。1996年には正会員は41名しか増えていません。新会員を増やしたいので、入会申込書が必要な場合はすぐに知らせて下さい。



オキサセフェム系抗生物質製剤

フルマリン®

静注用0.5g・1g

日抗基 注射用プロモキセナトリウム 薬号FMOX

■薬価基準収載
■「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」については、添付文書をご参照下さい。

[資料請求先] 塩野義製薬株式会社 製品部 フルマリン係 〒553 大阪市福島区鶴洲5丁目12-4

'96.6 作成B54 ⑧ 登録商標

シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8 平541

● 1997 Membership Dues

As usual, the invoices for the 1997 membership dues will be printed and mailed towards the end of November to all active ISS/SIC Members. The amount of the 1997 annual dues remains unchanged since 1994 at USD 120. --. The subscription to World Journal of Surgery is already included in this amount. It might be of interest to you and your colleagues to know that the personal subscription rate to World Journal of Surgery is at USD 149. --. To become a member with ISS/SIC therefore is surely a worth while and advantageous investment.

You hopefully have also noticed that the number of copies of World Journal of Surgery has increased from 6 to 9 issues this year. It is planned that it even will go up to 12 issues per year starting with 1998.

Every year we are unfortunately compelled to neutralize the memberships of those who have not paid their membership dues by the end of September after two reminders and several months of patience from our side. We are well aware that members from certain countries have great difficulties in sending hard currencies. As a solution to solution to solve this problem, we suggest to get in contact with sponsoring companies in wealthy countries. Results in this respect were quite fruitful and encouraging. The Headquarters will be pleased to reactivate the memberships concerned as soon as possible.

On the other hand, the membershipsdrive for developing countries with a special offer of sending one World Journal of Surgery to a group of four members has not shown big interest.

Should you require any support from our Secretariat concerning Membership matters, be it by providing you with mailing labels of the members in your country, accurate membership list, etc., please do not hesitate to let us know.

● Acapulco Congress

You should have received in the meantime your copy of the Preliminary Program which was mailed from Mexico. We very much hope that this Program will attract a large number of Participants from your country. We may recall that airlines will offer special rates for group tours. It has been the prerogative of the National Sections to organize such a group tour and we very much encourage you to take the necessary steps in this respect. Please feel free to select your own travel agency and airline. However, having Aeromexico as the official Congress Carrier, we recommend to book your flights with them.

With this letter we should again invite you as National Representative to take actively part in the International Surgical Week 1997 as a Moderator in Free Paper, Poster or Video Sessions. Please let us know in case you are interested in being included as a Moderator. Furthermore, we also kindly invite you to send us a list of names of your colleagues who might be invited as well to moderate a Session. Please let us know their full address and specific fields of interest according to the numbers on the Abstract Forms or on the first page of the Membership Booklet. The Program Committee Members will be happy to include as many names as possible in the various Sessions. It is the prerogative of all Integrated Societies (IAES, IATSIC & IASMEN) to select Moderators at their own discretion.

● Abstract Forms

With great distress we found out that the blue ink used for the Abstract Forms printed in Mexico is chemically inconsistent and does not accept writing on it, whereas those from the Headquarters can be used without any restrictions. Despite the information given in the guidelines, we now strongly recommend to glue the summary on white paper to the Abstract Form. The Deadline for the submission of Abstracts has been set to **December 13. 1996**, which will apply strictly.

In case you will have a need for additional copies of the Preliminary Program and of the Abstract Forms (printed on good paper), we kindly ask you to contact our Office in Pratteln, Switzerland.

* 1997年度会費

すべての正会員に対して11月末までに1997年度会費の請求書が届くと思います。1997年度会費は1994年以来変わらず120ドルです。World Journal of Surgery の購読料はこの金額に含まれています。個人購読をした場合は149ドルですので、ISS/SIC会員になったほうが得です。

お気づきだと思いますが、今年World Journal of Surgeryの発行が6回から9回に増えました。1998年までには年12回の発行にしたいと計画しています。

今年も残念ながら、本部より2回の催促にもかかわらず9月末までに会費をお支払い頂けない会員のメンバーシップをやむなく無効にしました。会員の中にはお金を送ることが非常に困難な国の方もいらっしゃいます。そのために裕福な国の企業にスポンサーになってもらう方法を提案しており、かなりうまくいっています。本部としてもメンバーシップの回復はすぐにでもいたします。

メンバーシップに関する事務局に問い合わせがある場合、会員の郵送用ラベルが必要な場合、正確や名簿がほしい場合など、すぐに連絡して下さい。

* アカブルコ会議

メキシコからプログラムが送られてきたと思います。このプログラムを見て多くの方が会議に参加して下さればと思います。各支部でグループツアーや組織して下さって結構ですし、旅行代理店や航空会社も自由に選んでかまいません。その場合必要なお手伝いもいたします。しかしアエロメキシコが正式な代理店 (Congress Carrier) となっていますので、航空券の予約などありましたらそちらにお願いします。

各国支部代表の方々が International Surgical Week 1997 のフリーべーバー、ポスター、ビデオセッションなどにモダレーターとして積極的に参加して下さるよう重ねてお願いいたします。モダレーターになっていただけるようでしたら、その旨お知らせ下さい。またモダレーターになって下さりそうな方々の推薦もお願いいたします。その場合は氏名、住所、専門分野 (アブストラクトフォームまたはメンバーシップブックレットの最初のページの数に従ったもの) を知らせて下さい。プログラムコミッティーメンバーとしてはそれぞれのセッションでできるだけ多くの名前を出したいのです。協賛学会 (IAES, IATSIC & IASMEN) の裁量によってモダレーターが選抜されることになっています。

* アブストラクトフォーム

メキシコで印刷されたアブストラクトフォームに使われている青いインクが化学的に合わず、その用紙にうまく書くことができないということがわかり、大変困っております。そこで本部から送られたアブストラクトフォームを使用してもよいことにしました。白い紙に書いたサマリーをアブストラクトフォームにのり付けすることをぜひお勧めします。アブストラクトの提出期限は1996年12月13日となっていますので厳守して下さい。

プログラムやアブストラクトフォーム (上質紙に印刷されたもの) の追加が必要な場合にはお知らせ下さい。

Anti Free Radical & PG Inducer

Mucosta

Free Radical

Neutrophil

NSAIDs

Stress

Helicobacter pylori

ムコスタの特徴

1. 胃粘膜のPG増加作用/フリーラジカル抑制作用を併せ持つ
初めての薬食・胃潰瘍治療薬です。(in vitro)

2. NSAIDsやHelicobacter pyloriによる胃粘膜障害を抑制します。

3. QOH^{**}を高め、再発・再燃を抑制します。(ラット)

4. 胃炎^{**}特にびらん・出血に優れた効果を示します。

5. 制作発芽率は69% (43/6,275)でした。しなな副作用は、便秘(6件)、GPT上昇(5件)等でした。

.. NSAIDs non-steroidal anti-inflammatory drugs(非ステロイド性抗炎症薬)

.. QOH: 急性胃炎の治療薬

** 常・炎症性胃粘膜障害

(効能・効果)

・胃潰瘍

・下記疾患の胃粘膜病変(びらん・出血・発赤・浮腫)の改善

急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期

(用法・用量)

・胃潰瘍

通常、成人には1回1錠(レバミピドとして100mg)を1日3回、朝・夕及び就寝前に経口投与する。

・下記疾患の胃粘膜病変(びらん・出血・発赤・浮腫)の改善

急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期

通常、成人には1回1錠(レバミピドとして100mg)を1日3回経口投与する。

胃炎・胃潰瘍治療剤

ムコスタ錠 100

Mucosta tablets レバミピド製剤

製造販売元 大塚製薬株式会社

学術部 大塚千代田地区神田司町2-9 東京都千代田区神田司町2-9

大日本製薬株式会社

大日本製薬神田司町ビル

● Meeting of the International Committee

The Meeting of the International Committee which shall consist of the

- Executive Committee
- Vice-Presidents of the Congress
- National Delegates and Representatives from each member country

Will be held during the Acapulco Congress on Sunday, August 24, 1997 by 10.00 a.m. at Acapulco Princess Hotel. After this Meeting, all National Delegates are invited for a lunch at the Princess Hotel. In case you wish us to include certain items for discussion on the Agenda, you are Kindly invited to let us know before the end of April 1997.

In case your Chapter should plan to present an invitation for International surgical Week in 2005, we will be pleased to add it to the list. Invitations to host Invitations Surgical Week in the year 2005 should be received before the end of January 1997 at the Headquarters Office in Pratteln. Please make sure that a complete documentation will be available for the Executive Committee Meeting which is scheduled for February 27, 1997. All invitations will be discussed again by the Executive Committee and International Committee at the Acapulco Congress in August next year. The General Assembly shall vote upon the recommendations by the International Committee with regard to priorities for the locations and dates of future Congresses. Congresses, Based on this vote the final decision shall be made by the Executive Committee after consideration of all relevant questions at all relevant questions at the 1999 Congress (Constitution Article VI page 55 in the Membership Roster).

Until today have received invitations from the following National Sections:

- Canada for Montreal or Vancouver
- France for Nice
- South Africa for a city to be named
- USA for Seattle

● Nomination of Honorary Members

It is the prerogative of National Sections to nominate Members for Honorary Membership to the Executive Committee. In case your National Chapter wishes to submit such a nomination, we kindly ask you to complete the enclosed application from for Honorary Membership. Please make sure that the nomination is supported by three ISS/SIC Members and that a short description of the services rendered by the candidate to ISS/SIC is given.

According to the Constitution (green booklet page 49), Honorary Membership is awarded by the Executive Committee. Recipients shall be members of international reputation, who have rendered distinguished services to the Society. Completed application forms should be received at the Headquarters by the end of January 1997 the latest.

● Nomination for Prizes of the Society

Similar to the procedure for Honorary Membership, the Nomination Chapters are invited to nominate Prizes Winners for the three Prizes:

- the Prize of the "Société Internationale de Chirurgie"
- the Robert Danis Prize
- the René Leriche Prize

by completing the also enclosed nomination from for Society Prizes. Suggestions for nomination must also be signed by three ISS/SIC Members of your country acting as sponsors. Furthermore, a short description of the Candidate's Contribution must be given by the main proposer. Please also return this form to the Headquarters by January 31, 1997 the latest.

We very much hope that all these news which are in addition to the Newsletter are to your interest. In case you might have some other questions, please do not hesitate to get in contact with us.

Looking forward to welcoming you in Acapulco, we remain with best regards.

Yours sincerely

Thomas P. Rüedi, MD, FACS
Secretary General ISS/SIC

Victor Bertschi

Administrative Director ISS/SIC
Enclosures - application form for the nomination of ISS/SIC Awards
- application form for the nomination of ISS/SIC Honorary Membership

*インターナショナルコミッティー会議

理事会、会議の副会長、各国各支部代表によって組織されるインターナショナルコミッティー会議がアカブルコ会議開催中の1997年8月24日(日)午前10時より開かれます。この会議の後支部代表の方々をプリンセスホテルにおける昼食会にご招待いたします。ディスカッションの項目としてアジェンダに載せたいことがありましたら、1997年4月末までにお知らせ下さい。

2005年 International Surgical Week の招致については、1997年1月末まで Pratteln 本部で受け付けています。1997年2月27日に予定されている理事会 (Executive Committee Meeting) で討議しますので必要な書類を準備して下さい。すべての招致申し出について来年8月のアカブルコ会議で理事及びインターナショナルコミッティーによって検討されます。インターナショナルコミッティーによって推挙された招致について場所の利便性や開催期間などに関して総会において投票が行われます。この投票結果に基づいて、あらゆる問題を考慮したうえで理事会が最終決定します。

今のところ招致を申し出ている国は次の通りです。

- カナダ (モントレーまたはバンクーバー)
- フランス (ニース)
- 南アフリカ
- アメリカ合衆国 (シアトル)

*名誉会員の推挙

支部代表は理事会に対して名誉会員を推挙することができます。その場合同封の名誉会員のための申し込み用紙に記入して下さい。また推挙には3人のISS/SICメンバーの推薦とISS/SICへの貢献について記入して下さい。

規約により、名誉会員は理事会によって授与されます。受賞者は国際的な名声を得ることになり、また学会に対する功労者として認められます。申込書は1997年1月末までに本部に提出して下さい。

*学会賞の推挙

次の3つの学会賞の推挙も名誉会員の場合と同様です。

- the Prize of the Société Internationale de Chirurgie
- the Robert Danis Prize
- the René Leriche Prize

この場合も3人のISS/SICメンバーのサインと第一推薦人による候補者の貢献に関する記述をそえて同封の申込書を1997年1月末までに提出して下さい。

(以上邦訳は、北里大学東病院で行いました。)

多価・酵素阻害剤
ミラクリッド注射液 指要指
MIRACLID inj. 25,000/50,000/100,000単位 (一般名:ウリナスタチン)

[効能・効果]

- 急性膵炎 (外傷性、術後及びERCP後の急性膵炎を含む)
慢性再発性膵炎の急性増悪期
- 急性循環不全 (出血性ショック、細菌性ショック、外傷性ショック、熱傷性ショック)

[警告]

本剤の投与は緊急時に十分対応できる医療施設において、患者の状態を観察しながら行うこと。

[使用上の注意]

1. 一般的な注意

本剤を急性循環不全に用いる場合には、次の点に十分留意すること。
(1) 本剤の投与は一般的なショックの治療法 (輸液療法、酸素吸入、外科的処置、抗菌剤等) に代わるものではない。
(2) ショック症状が改善すれば、投与を中止すること。
2. 禁忌 (次の患者には投与しないこと)

ウリナスタチン製剤に対する過敏症の既往歴のある患者
3. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

(1) 薬物過敏症又はその既往歴のある患者
(2) 過敏性素因患者
(3) 過去にウリナスタチン製剤の投与を受けた患者 [過敏症があらわれることがある。]
4. 副作用 (まれに: 0.1%未満、ときに: 0.1~5%未満、副腎なし: 5%以上又は頻度不明)

ショック、まれにショックが起こることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、胸内苦悶、呼吸困難等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

[2] その他の副作用

- 1) 血球：まれに白血球減少、好酸球增多等があらわれることがある。
2) 肝臓：ときにGOT、GPTの上昇等があらわれることがある。
- 3) 過敏症：ときに発疹、瘙痒感等があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。
4) 消化器：まれに恶心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。
5) 注射部位：まれに血管痛、発赤、瘙痒感があらわれることがある。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦・授乳婦への投与

(1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊娠又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回るかと判断される場合にのみ投与すること。
(2) 動物実験 (ラット) において乳汁中への移行を示唆する結果が報告されているので、授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。

7. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない (使用経験が少ない)。

8. 適用上の注意

(1) 本剤とメシル酸ベキサート製剤あるいはグロブリン製剤との混用は避けること。
(2) アンプルカット時の異物混入を避けるため、アンプルのカット部分をエタノール等で清拭しカットすること。

※詳細は添付文書をご参照下さい。

健保適用

<資料請求先>
持田製薬株式会社
MOCHIDA 東京都新宿区四谷1丁目7番地 TEL: 03-3360-1160 (N3)

抗悪性腫瘍剤
ランタ ® 毒指要指
randa inj. シスプラチニ製剤 健保適用

※効能・効果、用法・用量、使用上の注意などは、製品添付文書をご参照ください。

日本化薬株式会社
東京都千代田区富士見一丁目11番2号

特別寄稿

馬場 正三

（浜松医科大学第二外科教授）



万国外科学会日本支部ニュースレターに投稿を依頼されたので万国外科学会関連の古い資料を探してみた。

万国外科学会とのかかわりは随分昔の事になる。1958年 Tokyo USArmy Hospitalでのインターンを修了後、慶大外科へ入局した年だったと思うが、万国外科学会日本支部会で恩師故島田信勝教授と新潟大学医学部第1外科故堺哲郎教授が司会をされるSessionで発表される先生方の討論を通訳をするように命ぜられ、freshmanの分際で両教授の間にすわらされ極度に緊張しながら通訳をやった事が思ひだされる。

その時先輩がとてくれた写真があったはずなので探してみたが残念ながらみつからなかった。そのかわりその約20年後1977年に京都でSIC学会が開催された際の新聞記事が出て来た。Mainichi Daily Newsが発行した1977年9月3日付のSpecial Supplement Issueである。Supplement Issueといつても New York Times の日曜版までとはいかないまでも44頁にわたる大冊で、かなり力を入れて発刊された事が予測出来る。表紙にはSICのロゴと The International Congress of Societe Internationale de Chirurgie のタイトルと共に手術の風景が印版されていた。第2頁にはその時の会長 Dr. Frank Gerbode が Opportunity to share in science and technology with friends in Japan と云う題で SIC の歴史と京都の学会の Main thesis を紹介している。主な記事をひろうと Honorary Chairman 故小沢凱夫先生が Enthusiastic study and morality of "Sacred" Profession called for. と云う原稿を故斎藤漠先生は Mankinds progress in surgery owes much to leadership role of Society. 駿河敬次郎先生は Congress will become major milestone. 故高山坦三先生は History of Surgery in Japan. と云う原稿を寄稿されている。

10頁に Organizing committee member の顔写真と 6 頁に Japanese Chairman of the Sessions の顔写真が紹介されている。（写真1）20年前の若かりし日の写真である。大原先生、簗福先生などすでに他界された先生がおられるのが、残念である。

又学会を祝して記念切手も発行されている。（写真2）当時の意気込みが色々の面でしおれる。

出月会長のもとに20年ぶりに又 SIC を日本で開催出来る様にとの努力がホンコンの学会で試みられ、それについて、ポルトガルでも継続努力することとなり、今度は私が Speech をする破目になった。リスボンでの Speech になるので少しポルトガルを研究することにした。一国の文化や思想を知るには代表的文学作品を読む事が最も捷径であり重要なと思われるが、当時の日本ポルトガル協会をしておられた三井銀行の故柳満珠雄氏がまたまた小生の患者さんであった事からカモンイスの本を贈って下さった事がある。その中に日本を描寫した一節があった事を思ひだした。そこでカモンイスの詩の一節を引用する事にした。



（写真1）



（写真2）

カモンイスは西洋三大詩人の一人である。本と云うのは彼の最大傑作ウス・ルジアダスの出版400年を記念して岩波書店から日本語訳が出されたものである。

この本はモンテスキュー、シェーレー、バイロン等によって讃えられており世界で50種の訳本が出されている。いわば日本の源氏物語、スペインのドンキホーテの様な民族を代表する名作といわれているが我が国では名もしられていない。学会予定地の横浜のスライドを比企教授からいただきこの本からも日本への興味をもつ様な文章を引用しスライドと演説原稿を作った。誘致のためのSpeechを二回行った。理事会でのうけは大変良かった様に思われたが実際に投票が行われる会議で、他国の投票に多少作為的な面がみられたこと又日本からの代表者の出席者数が少なかった事もあって結果的には横浜への誘致は出来なかった。国際学会の場合やはり京都を希望する人が多い事がわかった。又この際のアジアの各国の票の動きなどから判断し、2度つづけて日本でやるより多少アジアの他の国も support し捲土重来をきするが良いのではないかと感じた。今後のためにも積極的に学会に参加し、力をため若い世代のどなたかがいずれ本学会を日本で主催出来る様今後とも微力ではあるが努力して行きたいと考えている。

第37回のアカブルコの学会での若い世代の皆さんの御活躍を期待している。

特別寄稿

田中 雅夫

（九州大学医学部第一外科教授）

万国外科学会と九大第一外科と
AINSHUTAINと



万国外科学会と私どもの教室とは古くから縁がある。というのは、日本人として初めて万国外科学会に参加したのが当教室の初代教授である三宅速（みやけ・はやり）であったからである。本学会がローマで開催された1922年（大正11年）のことであった。このときの三宅速とAINSHUTAIN博士との逸話は、『日独医学交流の300年』（E. Krass、比企能樹編、Springer Verlag、p.48）に詳しく述べられているが、ここで簡単に紹介したい。

今と違ってヨーロッパからの旅は飛行機でなく船であったから1—2ヶ月ほどもかかったようであるが、三宅速が帰国のためにマルセイユから乗った客船北野丸に、日本に講演に招かれての旅行途上にあったアイ

ンシュタイン博士が乗り合わせていた。博士はこの船上で、前年にさかのぼってノーベル物理学賞を授与するという知らせを受け取ったという。

船旅の途中で便通に際して血液の付着するのに気付いた博士は、これは直腸癌に違いないと思ってふさぎ込んでいた。船旅で友誼を結んでいた三宅速が、これを診察して単なるヘモロイドであることを診断したため、博士の憂鬱は解消し日本への快適な旅を続けることができたという。話はこれに留まらず、感激した博士は日本滞在中の予定を急遽変更して福岡の三宅速宅を尋ね、また福岡で相対性理論について講演もした。このAINSHUTAIN博士の福岡への来訪と、その後の三宅速との交友については数々の逸話が残っているし、岡山で空襲に見舞われ奥様とともに命を落とされた三宅速の墓碑（徳島県穴吹町）には、博士から寄せられた追悼文が刻まれてもいる。

今日では国際学会も数多く開催されるようになり、時間と費用の制限から関係ある学会に限るとしてもその全てに出席するというわけにはいかないが、万国外科学会は外科の国際学会として最も古い歴史を誇るということもさることながら、私どもの教室とのこのような縁からも他の学会より親しみを覚え、最近は毎回多数の教室員が発表する機会を戴いている。

特別寄稿

藤本 吉秀
 (癌研究会附属病院顧問
 東京女子医科大学前教授
 IAES 理事次期会長、会長を歴任)

万国外科学会総会と同時開催の IAES は
 内分泌外科の登龍門であり檜舞台でもある



写真は1981年スイスの Montreux で万国外科学会総会が開かれたさいの前夜祭の情況である。街のすぐ傍の山の上に古城があり、今はそれがレストランになっており、会長が主だった参加者を招いて開いて下さった。とくに知り合いがあるわけでもなく、いささか緊張ぎみに出かけて行ったのだが、受付をすませワインを片手に広場に入ったところで英国の Taylor 教授夫妻に会った。「どうだ元気か、ちょうどいい、一緒のテーブルに着こう」と誘って下さった。Hammersmith Hospital, Oxford 大学大学院の Dean をしておられ、ちょうど1981年から正式に発足した International Association of Endocrine Surgeons (IAES, 日本では国際内分泌外科学会とよんでいる) の初代会長に選ばれた方である。

宴も酣になったころ、会場を見渡して、「何と豪勢なことだろう。世界の各國を代表する外科の大特が勢揃いしている」と感嘆されるのを耳にし、尋ねてみた。「International と名のつく外科の学会が私の知っているところで他に2、3あるのですが、この万国外科学会の位置づけはどういうことでしょうか」。その時の返事は、「この会だけが少なくとも欧洲では古くからある唯一の国際学会であり、American College of Surgeons でもこの学会を最高の国際的外科学会と承認している」ということであった。Taylor 教授のお陰でいきなり世界の大外科医の面々に紹介してもらい、世界の檜舞台にひっぱり出してもらったことをついこの間のことのように感激をもって思い起こす。

内分泌外科関係はこの IAES が唯一の国際学会であり、発会当初から万国外科学会を母体とし、論文発表も万国外科学会の World Journal of Surgery を機関誌とした。IAES 学会の運営委員会の人選も真に学術的貢献度の高い人を公正に選び、3回の学術集会を経ると任期満了で次々と若手に代って行く。演題採択が厳しく4～5題に1題くらいの割であり、よい演題を厳選し、それを活発に討論し、選ばれた論文だけを機関紙誌の IAES 特集号に掲載するという方針である。このためタイトルにも記したように、IAES は内分泌外科医にとって国際社会への登龍門でありかつ檜舞台でもあるゆえんである。IAES の総会で2～3回発表すると世界中にその名は知られることになり、アメリカで出版される内分泌外科関係の教科書編集から執筆のよびかけがくるようになる。

万国外科学会の IAES 部門で、当初は日本からの発表は少なく、アメリカからの発表が過半数を占めていた。やがてアメリカ独自の内分泌外科学会ができそこでの発表論文が雑誌 SURGERY の毎年12月号に掲載されるようになり、その分が減ったのと、一方日本や欧洲のとくにスエーデン、ドイツあたりが頑張り出し、今日 IAES での口頭発表・論文掲載数では日本が第1級になった。大変喜ばしいことでご同慶のいたりである。懇親会でも、はじめの頃は日本人ばかりが会場の端のほうにたむろする傾向があったが、世界の、とくに欧洲の主だった大学病院を大勢で訪れ、見学させてもらい、お互いに個人的に懇意になるにつれ、今は何隔てなくどこの国の人々とも気安く話し合えるようになってきた。

万国外科学会、IAES 学術集会を通して初めて世界の医学に接する機会が得られ、それが大きい励ましとなり、また自らの医学医療のあり方、研究方法への反省ともなり、ほんとうによかったと思っている。内分泌外科を通しての記載になったがお許しいただきたい。

編集後記

万国外科学会日本支部が発足して1年。このニュースも支部の発足とほぼ同時に誕生したもので、まだその編集方針は確定しておらず、暗中模索といったところです。しかし、何か会員に有益なニュースをお届けできればよいと考えながら作成しています。本号では3人の先生に寄稿いただきました。これから多くの会員からの寄稿をお待ちしています。また、内容・構成を問わず紙面に関するあらゆる点について会員の先生方のご意見を是非お聞かせください。
 (村田宣夫)

第2回万国外科学会 日本支部常任幹事会議事録

1997年2月20日 ホテル日航福岡

出席者 比企能樹、山川達郎、出月康夫、北島政樹、白日高歩、高見博、田中雅夫、嶋尾仁、佐竹克介（オブザーバー）、酒井滋（オブザーバー）

1. 比企日本代表挨拶

2. 議案

議案（1）2003年の Surgical Week 開催地について

スイス本部より日本での開催の可能性についての打診があり、日本支部としての意志決定の再確認の必要がでてきた。討論の結果、1996年7月24日付けの日本支部よりの正式辞退状の通り、日本開催は辞退する。リスボンでの投票で第1位を占めたバンコクが辞退した場合は再度検討する。

議案（2）2005年又は2007年の日本開催誘致について

2005年は、順番からいとアメリカ大陸である。シアトル、ブエノスアイレス、ニースが立候補の予定である。可能性からは2007年の開催誘致が実現性が高い。立候補の際には準備委員長をたてる必要があり、日本支部会員からの自薦、他薦を待つ。

議案（3）日本支部会則について

高見常任幹事より原案がだされ討議された。今後、幹事持ち回り審議とし、賛同を得た上で、支部総会にかける。議決されたら、現在作成中の名簿とともに印刷し、会員に配布する。

議案（4）佐竹克介幹事の常任幹事への推薦があり、承認された。幹事会で承認されれば総会審議事項とする。

3. 次回万国外科学会日本支部会開催通知

1997年4月10日 16:00～17:00
 京都国際会館 501号室

○支部会会則の案を常任幹事会で作成しました。次期支部会で審議予定です。

万国外科学会日本支部会会則

(Bylaws of The Japan Chapter of The International Society of Surgery) (案)

第1章（名称）

本会は万国外科学会（International Society of Surgery [ISS] / Societe Internationale de Chirurgie [SIC]）の日本支部会（Japan Chapter、以下本会）と称する。

第2章（目的）

本会は ISS 本部の事業を円滑に、かつ効果的にとり行うために、日本支部会会員が協力し合うのを目的とする。

第3章（会員）

万国外科学会で承認された正会員（Active member）は本会の正会員になる。

第4章（役員）

第1条 種類と任務

本会には会長1名、事務局長1名、常任幹事若干名、幹事50名以内、監事2名をおく。

会長が本会を代表し、総会、幹事会を召集し、これらを総括する。

役員の任期は2年間とするが、再任は妨げない。

第5章（会費）

第1条 納付と会計報告

会員は所定の年会費を納める。

本会の会計年度は1月1日より12月31日までとする。

第6章（総会）

第1条 規定

本会は年1回以上開催し、会長がこれを召集する。

第7章（規定の変更）

第1条

本規定の変更は幹事会で決定し、総会でその承認を得る。

付則 本規定は1997年4月1日より実施する。